

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 いたし
 ①ありがたい ②すばらしい ③いたたまれない ④趣深い
- 2 さうざうし
 ①物足りない ②落ち着かない ③もったいない ④縁起でもない
- 3 むつかし
 ①つまらない ②じれったい ③うつつうしい ④難しい
- 4 すさまじ
 ①興ざめだ ②風流だ ③凡庸だ ④格別だ
- 5 あぢきなし
 ①はなはだしい ②喜ばしい ③つまらない ④おもしろい
- 「B」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

6 月見るとて上げたる格子下ろすは、何者のするぞ。いと便なし。(大鏡)

- (訳) 月を見るといつて上げてある格子を下ろすのは、何者がするのか。実に「」。
 ①平凡なことだ ②おかしなことだ ③困ったことだ ④冷淡なことだ

7 あさましきまであいなう、面ぞ赤むや。(枕草子)

- (訳) あきれるほど「」、顔が赤らむことだ。
 ①むやみに ②急に ③自然に ④本当に

8 年ごろ、仏・神にいみじうつかうまつりつれば、何事もさりとどこそ頼みはべりつれど、かくいふかひなき死をさへせむことのかなしき。(大鏡)

- (訳) 長年、神仏に熱心にお勤め申してきたので、何事もそうはいつでも(末々悪いことはあるまい)と頼みにしてきましたが、このように「」死に方までするということの悲しいことよ。
 ①ひどい ②苦しい ③寂しい ④難しい

9 あらぬよしなき者の名のりして来たるも、返す返すもすさまじといふはおろかなり。(枕草子)

- (訳) (来るのを待っていた恋人とは)別の「」人が名のつてやって来たのも、本当に興ざめだという言葉では言い尽くせない。
 ①有名でない ②身分がない ③裕福でない ④関係がない

10 かかる人も世に出でおはするものなりけりと、あさましきまで目を驚かし給ふ。(源氏物語)

- (訳) このような人もこの世に生まれておいでになるものだったのだなど、「」までを目をみはりなざる。
 ①評判になるほど ②興ざめになるほど ③苦々しくなるほど ④驚きあきれるほど

11 雪の山、つれなくて年も返りぬ。(枕草子)

- (訳) (年の暮れに作り、じきに融けるだろうとみなが予想していた)雪の山は、「」まま年も改まった。
 ①崩れそうな ②危険である ③何の変化もない ④作れない

12 行く先多かるに、大津のいとものむつかしき屋どもの中に、引き入りにけり。(蜻蛉日記)

- (訳) 行先はまだ遠いが、(牛車は)大津のひどく「」家並みの中に、入って行った。
 ①むさくるしい ②みすばらしい ③仰々しい ④恐ろしい

13 さがなき童べどもつかまつりける、奇怪にさうらふことなり。(徒然草)

- (訳) 「」子どもがいたした、けしからぬことでございます。
 ①いたずらな ②何も知らない ③幼い ④かわいい

14 あぢきなきことに心を占めて、生ける限りこれを思ひ悩むべきなめり。(源氏物語)

- (訳) 「」ことに心を奪われて、生きている間はこれを悩まなければならぬようだ。
 ①理由のない ②どうにもならない ③手の届かない ④とりとめのない

15 我がため面目あるやうに言はれぬる虚言は、人いたくあらがはず。(徒然草)

- (訳) 自分にとって名譽になるように(他人から)言われた嘘は、人は「」言い争って否定しないものだ。
 ①何度も ②ふつう ③たいして ④少しも

- 15 〔 ③ 〕
- 14 〔 ② 〕
- 13 〔 ① 〕
- 12 〔 ① 〕
- 11 〔 ③ 〕
- 10 〔 ④ 〕
- 9 〔 ④ 〕
- 8 〔 ① 〕
- 7 〔 ① 〕
- 6 〔 ③ 〕
- 5 〔 ③ 〕
- 4 〔 ① 〕
- 3 〔 ③ 〕
- 2 〔 ① 〕
- 1 〔 ② 〕